1. p.7, l.-7, $\{G_n \mid n > 0\} \to \{G_n\}_{n>0}$
2. p.13, l.4, 1 の基本近傍系 $\to$ 0 (加法群の単位元) の基本近傍系
3. p.18, l.-7, $[\mathrm{Gal}(L/K) : \mathrm{Gal}(L/M)] \to (\mathrm{Gal}(L/K) : \mathrm{Gal}(L/M))$
4. p.23, l.-10, $U_2 = \pi(U_2) \to V_2 = \pi(U_2)$
5. p.32, l.-8, $\sum$ を $\prod$ にする.
6. p.44, 例 1.7.17 は間違ってはいないが，$K = \mathbb{F}_p(t, s)$, $L = K(x, t^{1/p}x + s^{1/p})$ という例のほうがよかった.
7. p.48, l.1, Ω を $A \times \overline{K}$ の商体を含むようにとると，$A \times \overline{K} \to \Omega$ は当然単射である.
8. p.56, 1.7.2, Ω のとりかたの $\to$ Ω のとりかたに
9. p.69, l.8, 「$n = 1$ の場合より」の前に「$((a_1) + \mathfrak{p}')/\mathfrak{p}'$ は単項イデアルである. よって $\mathfrak{p}/\mathfrak{p}'$ は単項イデアルの極小素イデアルである.」を入れる.
10. p.92, 例題 2.8.11 の前に「定理 2.8.10 の分解を I の素イデアル分解という.」と入れる.
11. p.114, 定義 3.1.9 (2), X は完備な $\to$ X を完備な
12. p.122, l.14, 最後に $\mod \mathfrak{m}^{j_1}$ を入れる.
13. p.139, l.1, $A = k$ が体で $n = 1$ なら $B_{\mathfrak{m}}$ は離散付値環なので，$k[[x_1]]$ は完備離散付値環である.
14. p.143 中間くらいの太字の部分, S が G の生成集合で $\to$ S が G を生成し，
15. p.148 4.3.1 のすぐ上, 幾分考察が $\to$ いくぶん考察が
16. p.151, l.-2,-1, コンマをコロンに変更
17. p.154, l.-4, 最大不分岐拡大 $\to$ 最大不分岐部分体
18. p.287, l.-10, を書くと $\to$ と書くと
19. p.367, l.7, 補題 7.6.17 の証明で $\Phi(f_{1,1}^{-1}1) = I_n$ であることを証明していなかったので，ここに加える.

    $x = f_{1,1}^{-1}1$ なら，$x^{\tau}_{\sigma\tau^{-1}} \neq 0$ となるのは，$\sigma = \tau$ のときだけで，$f_{1,1} \in K^{\times}$ なので，$\Phi(x) = I_n$ である.
20. p.349, l.16, 逆準同型 $\to$ 準同型

21. p.394, 1.7.2, L, F どちらかが K の代数拡大体なら L, F で K 上生成された環が体であることを証明せよ.

22. p.402, l.10, $\sum_{n=0} \to \sum_{n=0}^{\infty}$

23. p.410, l.-11, a_1, a_2, a_3 を次数 $1, 2, 3$ の $\alpha_1, \alpha_2, \alpha_3$ の基本対称式 $\to (x-\alpha_1)(x-\alpha_2)(x-\alpha_3) = x^3 + a_1x^2 + a_2x + a_3$